SBAA EXPRESS

発行人
一般社団法人 自転車協会
TEL：03-5791-3203
FAX：03-5420-2211
sbaa-bicycle.com/

VOL.71-1
2017年4月号

自転車文化の底上げを担うサイクルイベント（後編）

「自転車遊び利用促進実証実験」

90年代にさまざまなサイクルイベントの企画運営に関わった石丸英明氏の新たな取り組みのひとつが、「さまざまな人が楽しめる自転車遊びを探りつつ、自転車でも安心して走れる場所を増やすことを目的とした実証実験企画を行う」という“転遊研”からの呼び掛け。その呼び掛けの結果「THT26◇自転車さんぽ」と言う、参加者が楽しみながら、行政へのフィードバックを行うという画期的なイベントが生まれた。「スポーツ利用のマニアだけでなく、日常利用のより多くの人も対象に自転車遊びの楽しさを、伝える、探す、という試みは、日本の自転車文化を考える一助になるのではないか」と、石丸氏は言います。

編集） 前回はショップ店長時代に企画した耐久ランが、フランスの伝統的なファストラン“ブルベ”に関心を持つキッカケとなり、「シマノ・バイカーズフェスティバル」の企画に関わり、海外への取材を重ねるなかで、マウンテンバイクを使ったマップリーディング、MTBラリーレイド「とれとればいく」を企画する事となった、というお話でした。

石丸英明（以下：石丸） 僕は“ブルベ”や“MTBラリーレイド”をツーリングコンペティションとして、日本でも組織的に遊ぶようにしたかったのですが、90年代当時は、自転車普及協会にて「まだ、時期尚早ですね」とアドバイスされました。その時、その理由は判りませんでしたが、後日、県境や地方を跨ぐ企画のアドバイザーを務める機会があり、「県警」や「管区警察」など所轄が複数になる場合の許可申請が大変だと言うことを知りました。でもその前に、不特定多数を集めてサイクリングを一般公道で行う場合の責任の所在が明確化しにくい事の方が大きいようで、今でも一定の自治体内でしか、サイクリング大会が行われていないのはそれが理由のようです。そのため各方面に相談しても「無理」と言われて、当時はかなり落ち込みました。そして2003年頃、一度はイベント関係から身を引いたのですが、友人から「本当にそれでいいのか？」と言われ思いついたのが、“転遊研”というキーワードでした。

編集） 転遊研とは、どんなものですか？

石丸） 転遊研は“自転車遊び総合研究会”の略称で、「Bike is Good！」をキャッチフレーズに、みんなで楽しめる日本の風土に合った自転車遊びを探りつつ、自転車でも安心して走れる場所を増やすことを目的とした「実験企画」を実施している緩い集まりです。自転車文化の底上げには、まず自転車市民権の獲得が必要と考えました。そこで、スポーツ利用と日常利用の懸け橋となるような自転車遊びを探し出し伝える、という試みに自分としてのやりがいを感じたのです。その試みは2005年頃から始め、実証実験に終わりはありませんが、次のステージに移りたいというのが今の状況です。

石丸英明（いしまる ひであき）
1959年山口県岩国市生まれ。サイクルイベントプロデューサー。
造船所勤務、自転車ショップの店長を経て、株式会社シマノのプロモーション企画に参画。欧米を中心にサイクルイベントを多数視察し、マウンテンバイク関連の企画立ち上げに数多く関わる。「シマノ・バイカーズフェスティバル」「ルイガノカップ」「しものせきサイクルマラソン」「ミズタニカップ」「マイクスフィッシングカップ」「CYCLE AID JAPAN」などの企画に参加する。また、海外の自転車事情を取材にイギリスやフランス、エジプト、カナダやアメリカへ行き、そこからヒントを得て自転車遊びの空白部分を埋めるように、MTBラリーレイド「とれとればいく」やブルベ「ルートエヌ」、「24時間耐久MTB CUP」を日本で初開催する。現在は、年齢性別車種不問で楽しめる「トレジャーハント・ツーリング（THT26）」を個人や自転車ショップ、NPOや行政といった主催者の大小を問わない等身大の運営で実践中。

SBAA EXPRESS

発行人
一般社団法人 自転車協会
TEL：03-5791-3203
FAX：03-5420-2211
sbaa-bicycle.com/

VOL.71-2
2017年4月号

編集） 実証実験で分かったことを、ショップさんやメーカーさんにも還元したいということですね。

石丸） それもあります。日本の実情に照らし合わせた「THT26◇自転車さんぽ」などの実験企画を通して「これはできる」「これはできない」ということがわかりましたので、そこから何を選択するか、という段階にきています。

編集） 以前、駒沢公園で行われた「自転車さんぽ◇タウンライド駒沢」を取材させてもらったのですが、楽しいイベントだと思いました。取材していても、参加したくなりました。レギュレーションの解説や説明の中にも、自転車走行を学習できる要点が含まれており、改めて楽しみ方を学ばせてくれるイベントでした。

自転車さんぽ参加者の様子

石丸） 「THT26」には警察も協力的です。広島市南区や京都府笠置町での開催では、スタート時に警察官が注意事項を説明してくれました。その時に要望されたのが「クイズの中で道路標識も扱ってほしい」というもので、積極的に道路標識問題も入れるようにしています。そのため「THT26」は、交通法規やマナーを学ぶ場にもなるのです。

編集） 自転車遊びにはマナーや交通安全意識の向上も不可欠だということですね。

石丸） 転遊研の次ステージのテーマに、「サイクリストライセンス」と「観光メンテナンス」があります。「THT26」や“ブルベ”の準備で町の中の道や幹線道路を調査すると、見えにくい標識や走りにくい道もチェックできるのです。自転車に関わる者として、どんな社会貢献ができるのかを考えると、ひとつには自転車目線で街の様子をチェックすることだと思います。その結果を行政にフィードバックするような、“地域貢献型マルチサイクリングクラブ”も僕は提案したいと思っており、そこにはS級サイクリストライセンスを持ったスタッフが属しているのが理想です。「ツール・ド・沖縄」の実行委員長も、自転車目線で道路をチェックして行政に意見を伝えたいと話していました。そういう目を持ったサイクルツーリストを育てることも、僕の仕事のひとつだと考えています。

編集） 上級者には上級者なりの、初心者には初心者なりの目線があるということですね。

石丸） ロードレーサーで走る人と、軽快車に乗っている人の目線は違います。「THT26」は、車種不問で参加するので両方の意見を集められるのです。

編集） たとえば釣りの世界では、人工孵化事業所がある河川以外で実際にサケが遡上しているのか、釣り人の釣果を集めて分析しているところがあり、それが町おこしにもつながっています。自転車による「観光メンテナンス」も、ニーズの掘り起こしが可能な観点ですね。道路行政は現在もほとんどが歩行者、自動車目線なので、自転車人口が増えている今、その目線は新しい視点を与えてくれますね。

石丸） これからは絶対必要だと思います。自転車協会が東日本大震災の復興支援をテーマに行ったチャリティーイベント「サイクル・エイド・ジャパン」でコースディレクターを務めさせていただいたのですが、本当に勉強させてもらいました。

（次ページへ続く）

発行人
一般社団法人 自転車協会
TEL：03-5791-3203
FAX：03-5420-2211
sbaa-bicycle.com/
VOL.71-3
2016年4月号

イベントでは、コース案内の標識もすべて自立式にする必要がありました。すでに立っている標識のポールに付けると、普段と違うものが付加されると注意力が落ちて大切な標識を見落とすから認められないなど、さまざまな理由があるのです。しかし、イベントを通して「自転車補助標識はあったほうがいい」ということは誰もが認めました。とくに必要なのは「この先は自転車が通れませんよ」と知らせる標識です。道路には、立体交差や自動車専用道などで自転車が通れない箇所があります。その手前まで行ってから、迂回路もないのに急に通行禁止と言われても困りますし、高速道路への誤侵入もニュースになってますよね。「自転車で移動するなら国道バイパスよりも旧道を通った方が便利です」という情報も、看板などで明示したほうがいいわけです。実際に外国人旅行客の方で自転車を利用している人は、そういう部分で迷っています。国道の標識だけを見て走っていると、いつまでたっても市内に入れなくなる地域もあります。自転車利用者を市街地に呼び込むのなら「市内の商店街はこちらです」という看板も必要だと思います。

編集）東京オリンピックへ向けて、外国人観光客の増加を促すのなら、そういう配慮も必要ですね。

石丸）山口県は、県知事が先頭に立って『サイクル県やまぐち』を推進しています。県の観光スポーツ文化部の担当者はマウンテンバイクの現役のダウンヒル競技者なのですが、自転車補助看板のアイディアに共感してくれました。補助看板の設置はモデル地区にサイクリストを動員して、「ここにはこういう看板がほしい」という調査結果の報告を行えばよいので、けっして難しいことではありません。

編集）SBAA PLUS 認定者は自転車のスペシャリストとして、自転車を販売・修理するだけでなく、自転車を通した地域貢献も期待されています。その部分で「THT26」と連携する、という方法もありますね。

石丸）そういう利用や活用をしていただけるのは、僕の希望でもあります。実際に僕が提携してイベントを行っているショップさんにも、SBAA PLUS 認定者の方もいます。「THT26」が年齢・性別・車種を問わないのは、ショップに来る色々なユーザーに参加してほしいからです。その場合、参加者の募集と運営はショップ、僕は調査とコースの設定・問題作成を行いお渡しする方法を取ることで、等身大の企画として手軽に行え、結果的に顧客サービスにもつながると思います。ただそれだけだと片手落ちですので、ユーザーには“時には主催者、時には参加者”という観点で、メーカーには国内・海外という枠を飛び越えて参画できる「ナショナルブルベ」も提案して、どんなショップの店頭でもサイクルツーリングの入口を見つけてもらえるようにしたいと思います。

編集）「ナショナルブルベ」は新たな提案として、「THT26」はすでにフレームワークが完成されているので、あとは開催地の実情に応じて内容や規模が変わってくる、という感じですね。

石丸）そうです。安全を確保するための自主規制もあるので、参加人数は最大でも 50 組・80 名くらいに抑えています。例年だと「萌黄のラリーデイ」「紅葉のラリーデイ」として、春と秋に各地で開催しているのですが、今年は秋から来年にかけて明治維新 150 周年応援企画も計画中です。

編集）今後「THT26」が、大きなイベントの中にお手軽メニューとして含まれることももちろんですが、地域密着の小さなイベントとしても活用が期待されますね。今回は貴重なお話をありがとうございました。

SBAA EXPRESS

発行人
一般社団法人 自転車協会
TEL ：03-5791-3203
FAX：03-5791-2211
sbaa-bicycle.com/

VOL.71-4
2017 年 4 月号

SBAA PLUS 店頭ツール

自転車シーズンの到来に合わせ、ユーザーに愛車点検（車検）を促す店頭ツールとしてポスターとリーフレットを制作しております。

4 月中を目途に SBAA PLUS 認定者様在籍店宛に発送させていただきますのでご活用ください。

【ポスターデザイン（案）】

【リーフレットデザイン（案）】

TBS ラジオ・ABC ラジオ「ミラクル・サイクル・ライフ」放送内容について

当会がスポンサー協賛しているラジオ番組「ミラクル・サイクル・ライフ」がリニューアルします(TBS ラジオ 4/2 〜、ABC ラジオ 3/27 〜)。

自転車に関するホットな話題を紹介する「週刊自転車ニュース」、SBAA PLUS 認定者や元プロロードレーサーなどさまざまな方をスタジオに招いてお話をうかがう「サイクリングトーク」、さまざまな角度からサイクルライフの楽しさを発信する「サイクル大辞典」の 3 コーナーで構成してまいります。

4 月のサイクリングトークには SBAA PLUS 認定者である「サイクルショップ　ショーワ」の中村泰哉さんも出演し、ご自身と自転車との関係やお店のある神奈川県横須賀のサイクリングの魅力などをご紹介いただきます。

また、パーソナリティーの疋田智さんと一緒に自転車の安全利用促進委員会の委員を務めていらっしゃる遠藤まさ子さんは当会と協力して行っている教職関係者向け自転車通学指導セミナー「通学車セミナー」などについてお話されます。

※過去の放送も TBS ラジオ CLOUD（http://www.tbsradio.jp/cycle-r/）でお聴きいただけます。

放送日		「サイクリングトーク」ゲスト	
TBS	ABC		
4 月 2 日	3 月 27 日	栗村修	元プロロードレーサー
4 月 9 日	4 月 3 日		
4 月 16 日	4 月 10 日	中村泰哉	SBAA PLUS 認定者 「サイクルショップ　ショーワ」
4 月 23 日	4 月 17 日		
4 月 30 日	4 月 24 日	遠藤まさ子	自転車の安全利用促進委員会委員

【サイクルショップ ショーワ　中村さん】

【遠藤まさこさん】

SBAA EXPRESS

発行人
一般社団法人 自転車協会
TEL ：03-5791-3203
FAX：03-5420-2211
sbaa-bicycle.com/

VOL.71-5
2017 年 4 月号

「CYCLE MODE RIDE OSAKA 2017」 *Report*

3 月 4 日（土）、5 日（日）に大阪万博記念公園　東の広場において CYCLE MODE RIDE OSAKA 2017 が開催され、渡辺理事長が協会代表としてオープニングセレモニーへ出席されました。

主催者発表による来場者数は 2 日間で 17,911 人でした。

【試乗開始の号砲を鳴らす渡辺理事長】

「動画で納得、今さら聞けない自転車のキホン」全 6 回完結 *Information*

SBAA 広報の一環として Web サイト「Cyclist」にて展開している「動画で納得、今さら聞けない自転車のキホン」の第 5 回動画と第 6 回動画を公開しました。

第 5 回では佐々木萌詠さんが茨城県霞ヶ浦にていよいよ公道デビューする姿を、第 6 回では集大成として千葉県館山での 50km ロングライドの模様を公開しています。

第 1 回から第 4 回までの動画もご覧いただけますので是非「Cyclist」（http://cyclist.sanspo.com/）にてご覧ください。

【第 5 回公開の動画映像】

【第 6 回動画撮影風景】

世界の偉人・有名人たちも自転車が好きだった。自転車に乗りたくなる名言集。

世界の偉人達が残した自転車にまつわる名言をお送りいたします。お客様との話題の一つとしてご利用ください。

第四回目は第 35 代アメリカ合衆国大統領ジョン・F・ケネディ（John Fitzgerald Kennedy）（1917 年 5 月 29 日 - 1963 年 11 月 22 日）の言葉です。

「自転車に乗る事ほど単純な悦びは他にない。」ジョン. F. ケネディ
Nothing compares to the simple pleasure of a bike ride. JFK

数多くの偉業を成し遂げてきた元アメリカ合衆国大統領、ジョン・F・ケネディにここまで言わしめたのは自転車でした。

画像出典：https://ja.wikipedia.org/wiki/ ジョン・F・ケネディ